【議題1】新型コロナウイルス感染症発生期間中におけるCPA(特定行為)への活動手順について

資料1-1

コロナ禍のCPA対応

①N95+ゴーグル装着　②エアフィルター付BVM　③マスクフィット後に胸骨圧迫　④全例LT推奨

経緯　活動中のエアロゾル発生による感染暴露を低減

熊本市MC協議会に承認を得て
救急隊へ通知（R2.4.21発出～現在）
※ 通知文（内容）資料１－４

５類移行

国）R5.5.8～ 5類へ移行
感染対策の移行期間を設定し、国の示す感染対策へ徐々に移行する方向で調整

➡**CPAの活動手順は<u>コロナ初期から変更しておらず</u>**、内容を**再考**する必要がある

今後の対応

【 案１ 】通知を**撤廃**し、コロナ前の活動に戻す

【 案２ 】通知を**継続**し、活動手順の変更はしない

【 案３ 】通知を**一部改正**し、今後の国の方針などをみて変更していく

【 案３ 】

前提　CPR中のエアロゾル発生を考慮しつつ、傷病者の不利益とならない活動を展開

救急隊へ通知から抜粋

CPAの活動手順　（R2.4.21発出）

1. 標準予防策に加えN95マスクを装着し対応にあたる。
2. 心停止の確認（脈の触知と胸の動きを観察するのみ。）「聴いて、感じて」は行わない。
3. エアフィルター付きのBVMで口元を覆う。
   ※マスクは離脱せずホールドを保つこと。
4. 上記を確認したのち胸骨圧迫を開始する。
5. 出来るだけ早期に食道閉鎖式デバイスを挿入しCPRを再開する。

新しく通知をする内容

今後のCPAの活動手順（R5.発出予定）

1. 標準予防策に加えN95マスクを装着し対応にあたる。
2. 心停止の確認（脈の触知と胸の動きを観察するのみ。）「聴いて、感じて」は行わない。
3. 直ちに胸骨圧迫を開始する。
4. エアフィルター付きのBVMを使用する。
5. 食道閉鎖式デバイス等の挿入は状況に応じて判断する。

【議題1】新型コロナウイルス感染症発生期間中におけるCPA(特定行為)への活動手順について

資料1-3

前提

CPR中のエアロゾル発生を考慮しつつ、傷病者の不利益とならない活動を展開

今後のCPA対応

① スタンダードプリコーション+N95+ゴーグルを着装

② BVMがリユース品でもあるため、エアフィルターを標準的に装着する

③ 心停止確認後、直ちに胸骨圧迫を開始する

④ 高度な気道確保の実施については、状況に応じて判断する

⑤ 車載のオゾン発生器を常時稼働し、活動後の消毒を徹底する

その他、市MC協議会での意見を踏まえ、令和５年１０月中に通知を発出（予定）

資料 1-4

消救発第０００００１８号
令和２年（２０２０年）４月２１日

消防署長　様
情報司令課長　様

警防部救急課長
（公印省略）

新型コロナウイルス感染症発生期間中におけるＣＰＡ（特定行為）への活動手順について（通知）

このことについて、下記のとおり運用に関する事項を取りまとめましたので、貴所属職員に周知いただきますようお願いします。

記

１　目　的

新型コロナウイルス感染症が拡大している現状を踏まえ、エアロゾル発生による救急隊の感染暴露を低減することを目的とする。

２　運用開始

本通知を持って運用開始とする。

３　ＣＰＡの活動手順

別紙のとおり

４　その他

(1) 上記取り決め事項の内容については、熊本市 MC 協議会と調整済みです。
(2) エアフィルター及びＢＶM用ビニール袋については後日、配布します。
(3) 活動に関し不明な点がありましたら救急指導班までご連絡ください。

警防部救急課救急指導班
担当：甲斐、森田、吉良
内線：１８２０

別紙１

新型コロナウイルス感染症発生期間中における CPA（特定行為）への活動手順

新型コロナウイルス感染症が拡大している現状を踏まえ、エアロゾル発生による救急隊の感染暴露を低減するため、CPA 症例に対する新型コロナウイルス感染症対策について注意事項を取りまとめましたので、活動手順に従って実施してください。

CPA の活動手順

１　標準予防策に加え N95 マスクを装着し対応にあたる。

２　心停止の確認（脈の触知と胸の動きを観察するのみ。）「聴いて、感じて」は行わない。

３　エアフィルター付きの BVM で口元を覆う。
　※マスクは離脱せずホールドを保つこと。

４　上記を確認したのち胸骨圧迫を開始する。

５　出来るだけ早期に食道閉鎖式デバイスを挿入し CPR を再開する。

注意事項

・活動中のエアロゾル発生による感染暴露リスクを低減するため、全例に食道閉鎖式デバイスの使用を推奨する。
・気管挿管は時間を要するため推奨しない。
・BVM についてはエアロゾル予防策（別紙２参照）を講じたものを使用する。
・エアロゾルが発生しやすい状況（用手換気、吸引）においては、N95 マスクを装着する。
・CPR 手技に直接関与する人員は最小限にとどめる。（例えば、消防隊の応援がある場合など、不可欠でない人員は居室の外に待機させる）

※上記の注意事項・手順については新型コロナウイルス感染症が収束するまでの期間の対応とする。